

News Release

News Release

平成 22 年 3 月 25 日

日本 C C S 調査株式会社

九州北部地域でのボーリング調査について

一昨年の洞爺湖サミット以降、日本は官民を挙げて地球温暖化対策に取り組んでおります。当社はそのための技術開発の一環として、二酸化炭素の大規模削減が期待される二酸化炭素の回収・貯留（C C S）の大規模実証試験実現に向けて、事前調査作業を経済産業省から委託を受けて行なっております。

この度当社は、経済産業省からの C C S 実証試験候補地選定のための事前調査を、既に公表しております勿来・磐城（なこそ・いわき／福島県）、苫小牧（北海道）地域に続きまして、九州北部地域におきましても地質調査を目的としたボーリング調査を下記の内容で実施することになりましたので、お知らせ致します。

【ボーリング調査の概要】

- | | |
|-------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| 1 目 的 | 地質データの収集（地質性状の把握）
九州北部地域の炭田地帯には、C O ₂ の地中貯留に有望と考えられる古第三紀の地層が広く分布しております。
この地層での C O ₂ 地中貯留が可能ならば、広域にわたる九州北部地域での C O ₂ 地中貯留の可能性が検討できます。 |
| 2 場 所 | 福岡県北九州市若松区響町 1 丁目 |
| 3 期 間 | 平成 22 年 4 月～12 月を予定 |
| 4 方 法 | ボーリング調査 1 坑（深度 1,300 m） |
| 5 実施者 | 当 社（掘削工事等は専門会社に外注予定） |

（注）C C S : Carbon dioxide Capture and Storage

二酸化炭素を分離・回収し、地中に貯留する技術

以 上

【添付資料】

九州北部地域におけるボーリング調査の実施について

九州北部地域におけるボーリング調査の実施について

I. CCS^{*1)}とは

深刻化する地球温暖化への有効な対策のひとつとして、二酸化炭素地中貯留 (CCS) が注目されています。

CCSとは、CO₂排出源からCO₂を回収し、地中800m以深の帯水層にCO₂を注入し、CO₂を半永久的に地中に封じ込める技術です。

*1) Carbon dioxide Capture and Storageの略

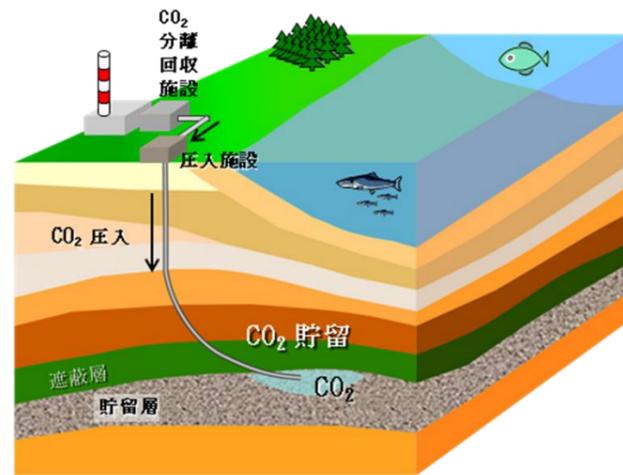


図1 CCSモデル図

II. 九州北部地域の地質的な特徴



図2 九州北部地域ボーリング調査の候補地

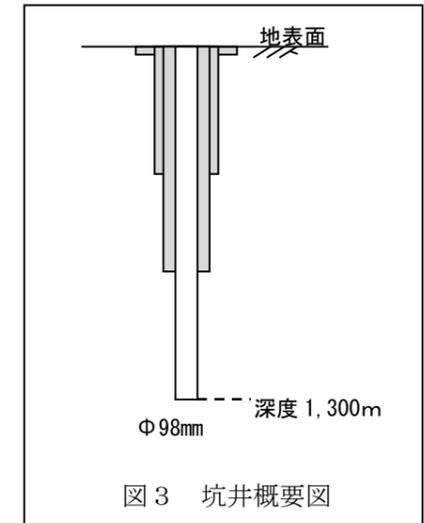
九州北部の炭田地域には、CO₂の貯留層として有望と考えられる古第三紀(およそ4,000~5,000万年前)の地層が広く分布しています。この地層にCO₂を貯留できれば、広域にわたる九州北部地域でのCO₂地中貯留の可能性が検討できます。

これまで、(財)地球環境産業技術研究機構(RITE)などが既存の地質調査データによりCO₂貯留可能性の机上検討を実施しておりますが、九州北部での深部地質データが十分でないため、実地調査も踏まえた検討が必要と考えております。

そのため、これまで調査が十分に行われていない古第三紀層についてボーリング調査を行い、CO₂貯留の可能性検討のためのデータ収集を行います。

III. 地質調査ボーリングの概要 (経済産業省の委託事業の一環として実施)

- 調査目的：古第三紀層の地質性状の把握
- ボーリング調査候補地：北九州市若松区響町1丁目(図2の●)
- 掘削深度：1,300m(垂直掘り)
- 坑井の大きさ：直径98mm(坑底)
- 調査内容：地質観察、物理検層(地層の測定)、坑井テスト、コア分析など
- 調査予定期間：H22年4月~H22年12月
- 調査スケジュール



	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	
準備・その他	準備								予備期間	
ボーリング調査	機器搬入	掘削・試験(150日間)					現状復旧			

※1 調査終了後は直ちに埋孔し、現状復旧します。
 ※2 調査スケジュールは今後の詳細検討により変更する可能性があります。

● 地質調査ボーリングの事例写真



ボーリング調査全景



ボーリング機械



安全装置(暴噴防止装置)



採取した地質サンプル(コア)とコアビット